

1834年、二人の若き建築家がアルハンブラ宮殿を訪れた。1人は、後に大活躍することになるオーウェン・ジョーンズというイギリス人。もう1人はジュール・グリというフランス人で、アルハンブラ滞在中にコロナで亡くなった。二人の共通項はイスラム芸術の魅力に取り憑かれていること、そしてアルハンブラの装飾の詳細を伝える本の出版を計画していることであった。

ジョーンズは有能な相棒を失いながらも、ロンドンに戻ってからこの計画に着手した。この出版のために、ジョーンズは二人の熟練リトグラファーの助力を得て自身のリトグラフ印刷所を設立した。そこで高精度な多色刷が可能となるための技術研究をかさねたあげく、ついにグリとの連名による「アルハンブラ宮殿の平面、立面、断面、そして詳細図」の出版に漕ぎ着くことができた。最初の出版の日付は1836年3月1日であり、これがイギリスにおける最初の色彩印刷のひとつともなったらしい（値段も最も高額であった）。

ジョーンズは、この出版に全精力を傾注したせいで事実上破産状態に陥り、ウェールズの実家の財産を処分しなければならなかった。しかしながら、この出版のおかげで無名だったジョーンズは「アルハンブラ・ジョーンズ」と名付けられて権威筋の専門家たちに知られるようになった。

まだ写真機が一般的でなかった当時、この種の博物誌的な出版の全盛期でもあり、高額であろうとも需要があったのである。ジョーンズの本以外にも、ジェイムジ・カヴァナー・マーフィ、ジュール・ブルグワンなども同種の本を出版している。

「アルハンブラ宮殿の平面、立面、断面、そして詳細図」は、従来ならば簡単には閲覧などできなかったところ、いまではネットでこの本を見ることができる。下に掲載図版を載せるが、アルハンブラの絢爛豪華な室内装飾を正確に描き出している驚きの図版が多数収められている。気が遠くなるような緻密さだ。

この出版で名を得たジョーンズは、やがてアルハンブラのみならず広く世界の装飾模様をコレクションした「装飾の文法」という決定的な本を出して、装飾芸術に関する第一人者となり、ロンドン万博ディレクターはじめ多岐にわたって大活躍した。



図1. オーウェン・ジョーンズ「アルハンブラ宮殿の平面、立面、断面、そして詳細図」より

古今東西の装飾模様を集めた本として、最も知られているのがオーウェン・ジョーンズの「装飾の文法 (The Grammar of Ornament)」であり、オギュスト・ラシネの「色彩装飾 (L'Ornement Polychrome)」であろう。特にジョーンズの「装飾の文法」は、さしずめ装飾図版の広辞苑とも言えるべき存在である。

オーウェン・ジョーンズは 1809 年にロンドンで生まれ、ロイヤルアカデミースクール卒業後は建築事務所に務め、イタリア～ギリシア～エジプト～スペインへのグランドツアーに出掛けて、イスラム芸術の取り憑かれてしまった。そして 1836 年「アルハンブラ宮殿の平面、立面、断面、そして詳細図」という本をだして一躍有名になり、1851 年のロンドン万博では内部装飾を手掛けるようになった。そして 1856 年、満を持して世界の装飾を集めた「装飾の文法」を出版して、装飾研究における第一人者の座を不動のものにした。この大型本の中に、世界の装飾がほぼ網羅されており、ただただ圧倒される。

私の手元にある「装飾の文法」は、1982 年にニューヨークの出版社で出された大型本で、神田の古本屋で入手した。若干の版ズレもあつてか、大判の割には安かったのでもたまたま買ったのだが、やがてこの本の価値を知るに及んで、私の手元に来る運命を感じざるを得ない本となった。国内では、「世界装飾文様集成 大型本」日本図書センター、その他判型を小さくしたものが出ているようだが、いずれも絶版となっている。

アルベール・シャルル・オギュスト・ラシネは 1825 年にフランスで生まれパリのエコールデボザール卒業後、画家としてサロンに出品しながらも、出版社フィルミン・ディドット・アンド・カンパニーで働いていた。1869 年に「色彩装飾 (L'Ornement Polychrome)」の美術監督を務めて出版したところ大成功を取めて、その後に続編を続けて出版した。ジョーンズの「装飾の文法」と同じ体裁ながら、慎重にも図版の重複を避けて、カラー・リトグラフの印刷仕上がりは凄い。また日本の図版についてもジョーンズより多くの図版を掲載している。なのでジョーンズの本を補完する充分に価値の高いものになっている。日本では「世界装飾図集成 1～4」と言うタイトルでマール社から出版されている。こちらは現在でも入手可能なようだが、縮小版は細部が潰れてしまうのでオススメはできない。

